

令和7年11月28日
(2025年)

保護者のみなさま

吹田市立高野台小学校
校長 川中 倫世

令和7度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎませんが、そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》 全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●国語《各領域における成果と課題》

言語の特徴や使い方に関する事項

*「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」ことは、全国値を上回っているが、無回答は全国値より多かった。

情報の扱い方に関する事項

*「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」ことは、全国値を上回っている。

我が国の言語文化に関する事項

*「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づく」ことは、全国値とほぼ同じ。

話すこと・聞くこと

*「目的や意図に応じて、日常生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する」ことは、全国値を上回っている。

*「話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる」ことは、やや課題がある。

書くこと

*「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える」ことは、全国値を上回っている。

読むこと

*「目的に応じて文章と、図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つける」ことは、全国値を上回っている。

*「事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する」ことは、全国値を上回っている。

●国語科における成果と今後の改善点について

物語や説明文など全体をとらえ、ねらいを持ちながら部分を読み進めたり、読み取りをした後、自分の考えや意見を伝えあう場を設け、まとめるなど、読む、書く、話す・聞く活動を取り入れた学習を進めている成果だと考えます。

日々の漢字学習では、言葉の使い方など漢字の習得だけでなく、言葉を広げる学習をしています。さらに語彙力を高める取り組みを進めます。

文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えることや、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させます。

話し合い活動においては、相手の意見を受け止める、自分の意見と違っても最後まで聞く、比較して整理する、理由を尋ねたり、意図をとらえたりしながら聞く、自分の考えをまとめるなどステップを踏みながら伝える力を育みます。話し合いたいと思える、題材や発問を工夫していきます。

国語科に留まらず、総合的な学習や社会科など他の教科でも、意図や目的に応じて必要な事柄や情報を、相手に分かりやすく伝えるために、図表やグラフを効果的に用いたり、写真や絵など視覚的な資料などを補足したりしながら、適切な記述の仕方を考えることに取り組んでいきます。

●算数《概要》 全体の正答率は、全国値を上回っていた。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

*「数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単に分数の幾つ分としてとらえる」ことは、全国値を上回っている。

*「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できる」ことは、全国値を上回っているが、正答率は低く、無回答率も多い。

図形

*「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する」ことは、全国値を上回っている。

測定

*「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できる」ことは、全国値を上回っている。

変化と関係

*「伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる」は、全国値を上回っている。

データの活用

*「棒グラフから、項目間を読み取ることができる」ことは、全国値を上回っている。

*「目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる」ことは、全国値を下回っている。

●算数科における成果と今後の改善点について

身近な生活に即した問題の提示や資料を活用し、興味・関心を引き出す授業づくりに取り組み、学習したことを生活に結び付けて考えられる力を育ててきた成果だと考えます。また、基礎的な計算については、放課後に行っているはなまるタイムや「頭の体操」プリントなどの取り組みの積み上げの成果であると考えられます。

今後も、基礎基本の力の更なる定着を図りつつ、計算の習熟に力を入れるだけでなく、基準となる数を見だし、数量の関係を捉えさせることや、数学的な用語や表現についての知識の習得と、習得した知識を活用する活動を行き来しながら理解を深めていきたいと思えます。

問題解決型学習において、適切な数や式・言葉を用い、筋道を立て根拠を明らかにし、目的に応じてグラフや表などを選択し、自分の考えを記述したり、説明したりする活動を増やし、日常の具体的な場面に対応させながら、変化の特徴を読み取り、図や式や言葉を用いて関係を表すことができるように工夫していきます。

●理科《概要》 全体の正答率は、全国値とほぼ同じ

●理科《各領域における成果と課題》

「エネルギー」を柱とする領域

*「電気の回路の作り方について、実験の方法を発想し、表現する」は、全国値をやや上回っている。

*「乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身につけている」は、全国値を下回っている。

「粒子」を柱とする領域

*「水が氷に代わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現する」ことは、全国値を上回っている。

*「水の蒸発について、温度によって水の状態が変化するという知識を基に、概念的に理解している」ことは、全国値を下回っている。

*「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身につけている」は、全国値をやや下回っている。

「生命」を柱とする領域

*「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身につけている」は、全国値を下回っている。

*「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現する」ことは、全国値をやや下回っている。

「地球」を柱とする領域

*「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果や問題に対するまとめを基に他の条件での結果を予想して、表現する」ことは、全国値を上回っている。

*「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、結果を基に結論を導いた理由を表現する」ことは、全国値を上回っている。

●理科における成果と今後の改善点について

観察や実験において、予想や仮説を立て、結果から分かったことを考えたり振り返ったりすることができており(質問紙の回答より)、それらが成果につながっていると考えます。

既習の学習内容について、基本的な知識の定着を図るために、領域などの系統性を考慮し、授業の中で再確認していくことで、新たに学ぶ事物や現象とつながるきっかけを作ったり、日常生活の中で理科に関する話題を取り上げたり、既知の内容について振り返る機会を持ったりし、学習を通して身に着けた知識を活用することができるような場面の充実を図ります。

また、観察・実験の方法が適切であったかを検討する時間をとり、結果に基づいてまとめを導き出すための思考をはぐくむ取り組みをしていきます。

自然の事物や現象を比較し、差異点や共通点を元に問題を見出し表現する力を身につけることができるよう、指導の工夫をしていきます。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

[生活環境・学習環境について]

*「学校に行くのは楽しいと思いますか」について、肯定的な回答が全国値を上回っている。

*「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答が全国値をやや上回っている。

*「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」について、肯定的な回答が多いが、否定的な回答もあった。

*「自分には、よいところがあると思う」(自己肯定感)について、肯定的な回答は全国値をやや下回っている。

*「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人に相談できますか」について、肯定的な回答は全国値を下回っている。

*「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」について、肯定的な回答が全国値を下回っている。

*「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、肯定的な回答は全国値を下回っている。

*「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的な回答の割合は、全国値をやや下回っている。

*「読書は好きですか」は肯定的な回答は全国値を下回っている。

*「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互い協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」について、肯定的な回答が全国値を上回っている。

*「あなたの学級では学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの良さを生かして解決方法を決めていますか」について、肯定的な回答が全国値を上回っている。

*「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答が全国値を下回っている。

〔教科・学習について〕

- *「分からないことやくわしく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」は、肯定的な回答が全国値を上回っている。
- *5年生までの学習の中で ICT 機器を活用することについての質問の中で、「インターネットを使って情報を収集（検索する、調べる）することができる」「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる」については、肯定的な回答が全国値を上回っている。しかし、「情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」は肯定的な回答が下回っている。
- *「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」「課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「各教科など学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」、肯定的回答は全国値を上回っている。
- *国語・算数、それぞれについて、算数は「勉強が好き」「得意」「授業の内容がよくわかる」の項目で肯定的回答が全国値を上回っている。国語では「得意」について肯定的な回答が全国値を上回っている。

3 今後の取り組み

本校では、今年度は算数科を中心として「主体的・対話的に学び合い、深く考えることを通して自分の見方・考え方を表現できる子」という研究テーマに取り組んでいます。教科に関する結果をふまえ、児童一人ひとりの主体的に考えようという学びに対する思いを大切に、それが実現できるように指導の工夫、授業改善、伝え合える学級づくりにさらに取り組んでいます。また、わかること、できることが自信となり、好きにつながると考えられます。楽しくわかる授業をさらに工夫していきます。

ICT機器を効果的に活用し、各教科での表現活動を重視した指導も一層進めてまいります。学んだ知識が、教科学習はもちろん実生活とも関連するように授業の工夫に取り組みたいと考えます。

生活習慣や学習習慣の結果を踏まえ、日々の生活や学習、行事を通して自己肯定感を高める取り組みを進めます。失敗を恐れず挑戦し、やり遂げる経験を通して自信を育みます。また、自分の価値を他人と比較するのではなく、自分自身を認め、周囲から認められる経験を積み、成功体験や達成感を味わえるよう、ご家庭と協力して取り組んでいきます。

自他の良さに気づき、違いを豊かさとして互いに認め合うこと、困ったことや不安なことを受け止め、周囲の人に頼りながら解決に向かえること、相手の気持ちを思いやりながら協力できる人間関係を作ることについて、今後も指導を進めてまいります。また誰もが安心・安全と感じられる学校生活を送ることができるよう、いじめ予防授業、デジタルシティズンシップ教育、人権教育、インクルーシブ教育など、教育活動全体において、自分自身を見つめ、子ども同士の関わりはもとより、さらに広く人との関わりを考える活動を進めてまいります。

今回の学力・学習状況調査において、日頃の子どものたちの学習に対する姿勢、努力が反映されたものとなりました。これも保護者の皆様が各家庭での学習環境づくりに留意して下さっていることが大きくかかわっていると考えます。

今回の学力・学習状況調査からみた課題を踏まえ、子どもたちがより充実した学校生活を送り、新しい時代を生きるために必要な教育を目指し、学校教育活動の充実を図ってまいります。そのためには学校、家庭、地域の連携が不可欠です。今後とも学校の取り組みにご理解ご協力をお願いいたします。